

第2回新庁舎整備基本計画検討分科会

<開催概要>

日時:令和7年10月1日(水) 14:00 開会

場所:熊本市役所 4階モニター室

参加者:(委員・臨時委員)田中委員(分科会長)、菅野委員、星野委員(Web)、吉城委員、住吉委員(Web)、壇委員(Web)、八幡委員、松里委員、道脇委員、西山委員

<資料>

- ・次第
- ・委員名簿
- ・配席図
- ・資料1_第2回分科会での審議
- ・資料2_新庁舎の仮コンセプト
- ・資料3_まちの回遊性向上に対する新庁舎の役割
- ・資料4_市民利用スペースの方向性
- ・参考配布1_文化的処方のはじめの一步:暮らしにアートを処方する
- ・参考配布2_東京藝大の学生と教員が探る「文化的処方」の種:「I LOVE YOU」プロジェクト2023ドキュメント

<会議の経過>

1. 開会、事務局挨拶

2. 田中分科会長挨拶

3. 審議に入る前の事前説明

(事務局)

今回の審議事項は、仮コンセプトと市民利用スペースの方向性になる。まずは仮コンセプトを設定した上で、市民利用スペースの方向性について審議する。仮コンセプトは、今後様々な機能を検討する中で、立ち戻ることができるよう設定する。ただし、仮コンセプトは、あくまで仮のものであり、今回整理した言葉がそのままコンセプトとなるとは限らない。今後の議論を踏まえて見直す可能性もある。

また、市民利用スペースについては、ワークショップでの意見や分科会での議論を踏まえ、方向性について整理を行いたい。次回分科会では、市民利用スペースの使い方や配置について審議を行う予定。

4. 審議事項1)新庁舎の仮コンセプト

(田中会長)

本日は仮コンセプトを設定して、その上で市民利用スペースの方向性について、整理をおこないたいという事務局からの説明であった。各委員については、その点を踏まえてご意見をいただければと思う。

審議事項(1)新庁舎の仮コンセプトについて、資料2では以前に各委員からいただいたご意見を踏まえて、私の方で仮コンセプト(案)をまとめた内容となっている。概略としては、1ページ目では、基本計画の骨子で各機能の検討の方向性について記載しており、具体的には「本庁舎・議会棟」、「中央区役所」、「災害対応」、「市民利用スペース」、「駐

車・駐輪場」が主な今回の新庁舎に関わる機能である。右側に審議結果を記載しているが、「基本構想で掲げる「まちの賑わいに貢献し、まちづくりの核となる庁舎」がどのようなものかを議論し、そのうえで庁舎像を描いたほうがいい」、「市民等と新庁舎の関わり方の整理が必要」、「各論を議論する前にまずはどのような庁舎とするのか議論の最中にも立ち戻ることができるコンセプトが必要である」、以上が前回の議論をまとめたものとなっている。また、駐車・駐輪については交通政策や社会動向を踏まえた台数の検討やウォークアブルの観点から近隣駐車場の活用を検討するという方向性についても了承をいただいたということになっている。これらを踏まえて、コンセプトは機能や要素ごとに定めるものではなく、最初の段階で定めるべきだということで、本日の審議事項である「仮コンセプトの設定」という話となった。

資料2の2ページ目は三分科会長に事前に意見聴取し、新庁舎の大きな概念図(仮)を描いたもの。基本構想の「防災」、「まちづくりの核」、「行政サービス」の3つを中心として、これらを大きく包み込むだけでなく、庁舎は長く使う場所であるからこそ社会などの変化に対応できること、また、情報や価値が生まれる・育むことなど繋げる形として真ん中に据えている。新庁舎というのは、これらを大きく包み込む外側の点線の輪郭みたいなものではないかと考えており、この余白には、あらゆる災害に対応できる、強さを持つとか、いろんな人が来る楽しい、つい長居したくなる創造性がある。また、行政サービスの近くでは、ワンストップや利便性が高い、良い執務環境などの必要な性能とか性質などが関わっていて、これらを大きく包み込むプラットフォームのようなものではないかと考えて描いている。また、プラットフォームの概念として、「開かれた市民との接点」「みんなでつくる、参加」「受け止める場」を記載している。これらの結果として、「防災」では「安全・安心」、「まちづくりの核」では「にぎわい」、「行政サービス」では「使いやすさ」というものが生まれるということで、新庁舎の考え方を図にした。

資料2の3ページについては、2ページ目の概念図を各委員に確認していただき、整理したものである。2ページ目の概念図に比べて、本庁舎と区役所の役割を具体的に描きつつ、全体図に落とし込んでいる。今回、本庁舎と区役所を別棟で整備するわけだが、それぞれの持つべき性格を上へ青文字で記載しており、本庁舎は「用事が無くても集える場所」、区役所は「用事がある人が集まる場所」であるべきだという役割分担ができる。また、下には対象者を記載しており、本庁舎は主に「熊本市民」「事業者」「来街者」であり、まちづくりで新しい出会いがある、ためになるというような役割が想定される。区役所の方は、熊本市民の「個人」、そして「区民」で主に窓口事務手続きが主な機能になるかと思う。丸く点線で表記しているのが、担う機能について書いており、本庁舎が「シティホール」、「展望スペース」、「展示・PR、情報発信」、職員が「働きやすい」、区役所の方が「アクセス性が高い」、「回遊性創出」、「ワンストップ」、「利便性高い」としており、両方に跨って「市民参画」が表記されている。これらを大きく包み込む、外側の輪郭には、共通する事項について記載しており、総評として「居心地がいい」、「まちの象徴」、「強靱である」、「創造性」、「文化性」、「歴史」、「多文化共生」、「オープン」などのキーワードが整理されている。以上が、庁舎の概念を本庁舎と区役所の役割に分けて考えるという整理になっている。

資料2の4ページではさらに建物のイメージに当てはめて、概念図を考えてみた。この図の見方は、建物(庁舎)の立面、断面というようなイメージで描いている。3ページ目の概念図からさらに空間的なイメージに踏み込んで、具体化したもの。先ほどの「居心地がいい」、あるいは「市民との接点がある」、「利便性が高い」というようなことを踏まえている。資料の左側では、民間施設とか公共施設、商店街、観光資源が敷地周辺にあるので、そこからの「入りやすさ」は大事であるということを表している。右側では、同様に敷居の低さについて表しており、例えば交通や動線のイメージで、電車通りやバス停、電停などとのパブリックスペースとのつながりをイメージしたもの。真ん中のスポンジみたいな絵になっている白い丸ってのが、庁舎を構成する「市民利用スペース」などの機能を描いたもの。また、特に重要なものが、緑で表現しているもので「市民が関わる場所」として表記している。よくある一般的な庁舎では、低層部にこの緑が集中してあることが多く、大きな塊としてそれで終わりというパターンが多い。今回の新庁舎では、そうではなく新庁舎を構成するいろんな空間スペースに市民が関わる場所を随所に散りばめられていて、それらがセクション、市民

とのつながりを各所で持つようなことを具体的に表現している。よって、下の方だけでなく、上の方、例えば展望スペースや庁舎の部署で少し市民と関われる場所についてこれから議論するところで考えている。

以上をまとめるとあらゆる人にとって、入りやすく居心地がいい、様々なものが生まれていて、あらゆるものを包み込む、多様な場所であり、選択しながらいろんなことが生まれていて、価値があるってということからイメージとして「森」のようなものではないかという考えになった。

資料2の5ページ目については、概念図の繰り返しになるが、「森」を想定して、「包摂」大きく包み込むという考え方、いろんなものが「循環」していくこと、いろんなものに対応していくしなやかさっていうものをもちながら、様々な場所をつくり、いろんな状態を作っていくという考え方としてまとめたものである。

資料2の6ページ目については、以上を踏まえて新庁舎の仮コンセプト(案)を四つ記載しているが、考え方を言語化する、整理する上でのポイントを事務局と私の方で案を作成した。

例えば、一つ目の「みらいの森・みんなの広場」については、市民のみなさんと一緒につくっていくという意味で「みんな」であり、「広場」という概念も庁舎に合っている、また、「森」という意味とこれからの時代に対応するという意味で「みらい」というポイントでまとめたものである。

二つ目の「みらいの森、めぐる・つつむ・まもる」については、先ほどの包摂や循環、しなやかな対応というものを少し前面に出そうということで、みらいの森でめぐる、または生きる・生かすなのかは悩ましいところであるが、循環を表したものである。「包摂」や「しなやかに対応する」という意味を「まもる」に言い換えて副題を追加した。

三つ目、四つ目については似たような感じではあるが、「みんなで創る みらいの森」、「まちを創る みらいの森」などという案を挙げている。

コンセプトを整理する上でのポイントを下に記載しているが、聞いた市民の方々が誤解なく受け止めることができる、誤解のないような適格性、必要に応じて副題などで補完することをあわせて整理する必要があるかもしれない。また、新庁舎の役割や空間を想起させることができるか、これは同時に僕らの中で立ち戻ることができるっていうときに必要なエッセンスでもある。三つ目は議論の最中に立ち戻ることができるか。最後に、先行して整備されている桜町花畑地区のコンセプト“熊本城と庭つづき『まちの大広間』”と調和がとれたコンセプトとなっているか、がポイントかなと思う。以上を踏まえ、本日は仮コンセプトについてご意見をいただきたい。できれば決めたい、というものが審議事項の一となっている。ということで、ご質問やご意見を自由にいただきたい。

(松里委員)

コンセプトの方向性については、おおよその議論をまとめていこうかというところに注力してもいいのではないかな。皆さんにご異論がなければだが、「森」というイメージもなんとなく共有できているような気がするので、どんな言葉を載せて、市民や市役所職員に伝わるものにするかが、今回の重要なところだと思う。

例えば、(案)の三つ目だが、「みんなでつくる」という言葉にしてしまうと完成してしまう、「森」は変化していくものであり、育てていく、守っていかないと、枯れてしまうっていうのを含めると、その「つくる」という言葉にプラスして、「育てる」というような、あるいは守り育てるっていうようなイメージが加わると、これからも関わり続けていく、っていう方向性も表現できるのではないかな。「つくる」って終わらない方がいいのでは。(案)の二つ目でも森を公園のようにつくっておしまいではなくて、そこで使い続けること、育てること、守ることっていうところをもう少し、打ち出した方が市役所を使い続けてもらえる気がする。継続性を表現できればと思う。

(田中会長)

まず、この「森」については皆さん、了解いただいたということでよろしいか。

(道脇委員)

私は、市電で辛島町から市役所まで来るのだが、その時に花畑公園、この公園の位置取りというのが非常に大きいと思う。みんな初めて熊本に来た方達が、サクラマチの建物が綺麗に見えるが、先になってくると下の方が見えない。

花畑公園のあの形というのは、市としてはそのままの形ということになるのか、新庁舎を考える際に市電からの景色を意識してはどうか。コンセプトを「森」とするならば、その辺も考慮した方がよいと思う。新庁舎の立地は市電から見ると花畑公園の後ろに位置することになるので、イメージをつくるのであれば、相対的に考えるのが大事だと思う。

(田中会長)

花畑公園の整備は終わっているのか。

(事務局)

整備自体は完結していると思う。担当の市街地整備課に計画等があるか確認する必要がある。

(田中会長)

私も花畑公園の再整備に携わっていたが、基本的には完結している認識である。確認をお願いする。

(道脇委員)

「森」という言葉が表現していくと、外見上の「森」のイメージが重なってくるかなと思う。

(事務局)

おっしゃられるとおり、外観上の森のイメージが強いというのは、少し誤解を生むところがあるので、副題を付けた方がいいのではないかなと思う。

(菅野委員)

違う観点での意見だが、私は熊本出身ではないので、例えば熊本の人の主義やアイデンティティを想起するような言葉はあるのか。例えば、横浜市役所では、低層部にいろんなものが集中しており、使われ方を見たなかで、一時的に大テーブルが飾ってあった、横浜市の職員がテーブルを囲ってみんなで物事を決めるという「大テーブル主義」というので設置した経緯がある。どの都市でも使えそうな言葉なので、熊本にもそういった言葉などがいないか投げかけてみたところ。

(事務局)

先ほどの話だが、花畑公園について担当課に確認した結果、今後の整備の予定はなく、あの状態で完結している。

(松里委員)

森に関するコンセプトを設定するのであれば、シンボルとして花畑公園があると連続性がとれる。アプローチとしての流れがあるといいのではと思う。花畑広場の人工芝だけでは森とは言えない。古くから森が存在しているからそれを新庁舎にも借景として使ってもよい。

(田中会長)

花畑広場の大楠は、樹齢 700 年と言われていて、花畑屋敷の一角に残っていた。それはそれでいいと思う。菅野委員の話に戻す。

(松里委員)

私も熊本出身ではないが、熊本は、城と緑と水というイメージがある。あとは、肥後もっこすとか。

(菅野委員)

主義はあるのか。何か降ってわいたコンセプトを本当に自分たちの行動様式として身体化できるかという、ちょっと別の話だと思っていて、引っ掛かりみたいなものはなくていいのかなと思う。

(松里委員)

肥後もっこすは悪い意味ばかりではない。

(田中会長)

熊本は、肥後もっこすでありつつ、わさもんでもある。これはすごく面白いことと思っている。守りと攻め、保守的な部分と革新的な部分の両方があるっていうのは、熊本の気質だと思う。良いものはとりこんで、新しいものは好きだけど、伝統も大事にする。矛盾に満ちた感じが面白いと思う。

(菅野委員)

創ると守るが一緒にあるみたいなのはよいと思う。

(西山委員)

火の国祭りや、九州男児という言葉も、熊本のイメージとしてあるのかなと思う。

(田中委員)

ラフカディオハーンが、簡易・善良・素朴という熊本の考え方を整理している。簡単に、善良であって、素朴。これを熊本スピリットと言えていると思う。ハーンもよそ者だが、よそ者から見て、熊本はそういう特質があるということ。

(八幡委員)

熊本の人が森という言葉聞いた時に連想するのは、漱石以来の森の都であり、県都であり、森という言葉聞いたら市民はそのあたりを連想するということはある。また、森に対する親和性は高い気がする。

(事務局)

森と聞いただけでは、庁舎とはつながらないので、その心はというところの整理は必要だと思っている。

(道脇委員)

森というイメージを出してしまうと、市電から見た時に、高層ビルが建つようなことになる、ちょっとイメージがおかしくなる。森を想像させるような何か作り方を考えなければならない。

(松里委員)

熊本城は元々、木はそんなになかったが、今となっては、緑と城が調和しているので、そこは何かかなっていくのではないかな。ただし、あまり華美でなく、シンプルがいい。簡易善良素朴ということも含めて。森と共存する新庁舎ではなく、新庁舎自体が森になってほしいので、あとはどんな森にするかというところを打ち出せば、森と庁舎がイコールで結ばれていくのではないかなと思う。

(道脇委員)

桜町にも草木があるが、新庁舎の中にもそういう部分があるといい。

(田中会長)

そう。桜町は熊本城と庭続き。まちの大広間なので、庭が続いていって、緑と一体性というのは欲しいと思う。

(松里委員)

あとはプロムナードと花畑広場の部分は、森をイメージさせるにはあまりに暑いので、日差しを守ってくれる傘としての役割もよい。

(田中会長)

花畑広場は、木を植えて日陰をつくりたかったが、辛島地下駐車場があり、土壌がなく出来なかった。辛島公園もそう。

(八幡委員)

桜町と聞くと、私としてはおしゃれなイメージや近代性のようなイメージがある。それが森のイメージとどうかというのはあるが、もし可能なら、おしゃれな桜町の一角に建つわけだから、外観もアート性というかポップさというものを出せばいいのかもしれない。ただし、それが果たして熊本市民のテイストにあうのかということとわからない。

(松里委員)

市役所には少し質実剛健さという硬さがあってもよい。実直さとかまじめさとか。奇をてらわなくてもいいから、きちんと仕事をするような。

(菅野委員)

例えば案2(みらいの森 めぐる・つつむ・まもる)のめぐるというのは、大きな3Dな森のイメージだとそうなのかもしれないが、もっと実直な言葉でもいいのかと思う。先ほどから、続けるという話も出ていたので、そういうコンセプトを

足した方がいいのではないか。案1や2については、中身はこれから考えよう感じになり、創るという部分がない。「わさもん」や「肥後もっこす」などが想起出来る言葉がいいのではないかと思う。

(吉城委員)

「もっこす」や「わさもん」という言葉はすごく大事だが、そういう人たちが受け入れられる言葉が大事だと思う。なので、コンセプト自体を「わさもん」や「もっこす」という言葉自体に寄せなくてもいいような気もする。

(田中会長)

みんなでそれぞれ考えませんか。言葉を。その上で、これっという言葉を決めましょう。オンラインの委員の方もチャットでたくさん書いてください。

(事務局)

市の内部でもいろんな意見をもらっている。森に近いような言葉で、「育む」という言葉が良いのではという意見があった。

(星野委員)

森でもいいと思っているが、緑でもりもりの庁舎になるっていうふうに伝わらないように工夫しなければならないと思うのが一つ。あと、花畑広場とか、桜町よりも今の「既存のまち」とつながりを作っていく必要があると思う。

(松里委員)

本当につくりたいのは未来の「まち」。まちをつくり育てるのではないかと。だから、森と書いて、ふりがなで「まち」と書いていいくらい。熊本って「まち」は特別な言葉だったりする。これまでのまちに新しい木を植えていき、活性化させるところをコンセプトの中で出せると面白い。

(田中会長)

そういうのを書いてください。あと、オンライン。壇委員もお願いします。

(壇委員)

森は生命体で、止まっているように見えるが、中は循環しているということなので、先ほど育むという言葉がでてきたが、出来たら終わりではなく、ずっと育て続けるといったイメージがあるとよい。そのような意味では、「みんなで育む森」というのがいいと思う。

また、阿蘇方面から市内に来るときに森が続いており、熊本全体として木を大切にされているというのはあるので、そういう意味では、「森」という言葉はコンセプトとしてよいと思う。一方で、市庁舎の、中身の機能としての「森」なのであれば、どこからに説明書きがないとわかりにくい言葉だと思う。

(田中会長)

ありがとうございます。では壇委員も書いてください。あとは、住吉委員はどうでしょうか

(住吉委員)

P5 に森のようなイメージがあって、循環と包摂としなやかな対応というのがある。ここに出てくる言葉というのは重要ではないかと考えていて、これからの行政の将来像みたいなことを考えていくと、人口減少やDX化でスリム化していくとか、水害などの問題で災害対策が必要とか、脱炭素化などのエネルギーの話もあり、そうした言葉を入れて欲しい。そのような発想でいくと、「未来につなぐ」みたいなイメージかなと思う。

(田中会長)

なるほど。書いてください。

(西山委員)

私も同じで、「つなぐ」という言葉を書いた。人と人をつなぐであったり、伝統、まちと庁舎をつなぐなど、いろんな意味でつなぐを掛けられるのではないかなと思う。

(田中会長)

なるほど。ありがとうございます。出来れば、「つなぐ」を使って、コンセプトの一文に仕立ててくれるとすごくいい。キーワードはたくさん出せるのだが、これをコンセプトに仕立て上げなければならない。

みなさん、あと10分で考えましょう！

(星野委員)

コンセプトはいきなり設定できない。大きなまちづくりの視点も含め、分科会を重ねて解像度が徐々に上がり、最終的にフレーズとして最後にまとまるのが第6回ということだと思われる。

(田中会長)

事務局側の説明では、機能ごとのコンセプトがあって、それから全体のコンセプトをまとめるという話し方に聞こえたが、やはり、検討分科会で部分を考えていくためにも、その中で根本の考え方に立ち戻れる、全体のコンセプトが最初に必要だと思われる。

(松里委員)

まずはどんなまちにしますか？という部分がないとコンセプトが掲げられないと考える。個々の議論を尽くす前に、大きなコンセプトを掲げないと各論に移れないのではないかな。

(吉城委員)

プロポーザル提案の「つなぐ熊本」というコンセプトは忘れて、まっさらに考えてよいのか。

(事務局)

プロポーザル提案の考え方もベースにしつつ、今日の議論も踏まえて検討したものを提示したいと考えている。

****委員からは以下のようなキーワードが提案された****

- 「森」のイメージ(熊本は「森の都」としてのアイデンティティがある)
- 「守り」「育て」「つむぐ」「つなぐ」などの動詞
- 時代の変化に対応できる持続可能性
- 伝統と革新のバランス
- 「ひごもっこす」(簡単・全力・素朴)という熊本の特質
- 「わさもん・もっこす」(保守的な部分と革新的な部分が両方ある)

(松里委員)

創りたいのは、みらいのまちでは。まちを作り、育てるのでは。まちを活性化する起爆剤としての新庁舎になる。みんなの森という、これまでのまちに更に新しい木を植えていくという、まちを活性化するということをコンセプトに込めると面白いのでは。

(壇委員)

森は、止まっているが循環しているということを指す。育むという言葉があったが、作って終わりではなく、育て続けているというイメージがあった方がいい。「みんなで育む森」などがいいのでは。熊本全体として、木を大切にしているため、森という言葉でいいが、市庁舎として機能の面から考えると、説明がないと分かりにくい。

(住吉委員)

5 ページ出てくる言葉が大事。これから人口が減っていくという問題もある。DX でスリム化して変化が起きる。脱炭素化などの話もあり、変化に対応していくという話もある。その辺りも書いてもらいたい。そういう発想で行くと、未来へつなぐイメージを感じる。

(西山委員)

人と人をつなぐ、伝統を引き継ぐ、まちと庁舎をつなぐ、様々な意味が「つなぐ」にはある。

(田中会長)

各自、仮コンセプトの案を考えてみましょう。

(10 分ほど時間を取り、各委員が仮コンセプトを検討)

****田中会長が、各委員から寄せられた仮コンセプト案をホワイトボードに書き出し****

みんなでつなぐ みらいの森 みんなで紡ぐ森 みんなの森 創り、育てる
熊本の森(まち)に 新たな木(新庁舎)を植える つながりともに育つ
みんなで育むみらいの森 ー つなぐ・つくる・まもるー つなぎ はぐくむ 肥後の森
皆とはぐくむ みらいの森 友とはぐくむ みらいの森 皆とつなぐ みらいの森
友とつなぐ みらいの森 みんなで育む未来の肥後の森 みんなで育む 未来の森
みらいの森 つくる・めぐる・はぐくむ まちを育む みらいの森 未来につなぐ森
自然と歴史を未来へつなぐ 開かれた森 市民と未来をつなぐ森
未来のまちを まもり・そだて・つなぐ“森”としての庁舎

(菅野委員)

もりとは、まちを指すのか。庁舎を指すのか。

(松里委員)

森は1本ではできない。新庁舎1つで森にはならない。まちを大きな木として、そこに森の一部分として新庁舎が加わる方がいいのでは。

(菅野委員)

つむぐ、はぐくむ、育てるという言葉がある。まちを育てるのだが、庁舎もまだ育っていない。そのイメージをどちらで捉えるか。少なくとも庁舎を育んだ結果、まちができるというイメージ。

(田中会長)

両方では。庁舎も育むが、まちも育む。広がってほしい。事務局としてはどのように思うか。

(事務局)

庁舎の基本計画であるなら、その中の「未来のまちを まもり・そだて・つなぐ“森”としての庁舎」がよい。庁舎が森というイメージとして、ぱっと聞いたときに「“森”としての庁舎」という言葉がずっと受入れられる。

(田中会長)

委員の皆さんのイメージをまとめるとこういう感じかと思った。

(松里委員)

「まもり・そだて・つなぐ」を「つなぐ」の一語で代用できるのでは。「つなぐ」は継続性もあり、創造性もある。「未来のまちをつむぐ庁舎」とシンプルにしてはどうか。「育む」も含まれる。

(菅野委員)

あまり縮めてしまうと、具体的に計画する際の鑑とならないのでは。抽象的すぎると分らない。スローガンになってしまう。あまり複数の意味を兼ねるというのは、計画上揺れがでるのでは。多少長くても言いたいことを入れた方が、コンセプトとしては大事では。

(田中会長)

コンセプトであり、キャッチフレーズではない。

(菅野委員)

つむぐは便利な言葉だが、様々な意味で捉えられてしまう。

(田中会長)

「つなぐ」を「つむぐ」に変えるのもある。「つむぐ」は創っていく感じが出る。ペースを「未来のまちを まもり・そだて・つなぐ“森”としての庁舎」で考えてよいか。WEB 参加の委員はどうだろうか。

(星野委員、壇委員、住吉委員)

それで良いと思う。

(吉城委員)

つなぐもつむぐも、700 年の歴史がある中で、時代をつなぐ・つむぐという役割があると思う。未来のまちと限定しては、時代をつなぐ・つむぐに違和感が出るのでは。

(星野委員)

それだけ丁寧に書くのであれば、「未来の」は不要では。

(田中会長)

「まちをまもり・そだて・つむぐ“森”としての庁舎」でどうか。

(松里委員)

市民も職員もそこでそだつ。

(菅野委員)

「まちをまもり・つむぐ 皆でそだてる“森”としての庁舎」ではどうか。

(田中会長)

「“森”としての庁舎」が、全体に掛かる方がよいのでは。

(事務局)

人が主役ではないように思われる。人とのつながり大事では。

(田中会長)

「人とまちをまもり、みんなでつむぐ”森“としての庁舎」にしよう。

(菅野委員)

まもりの前に「みんなで」とし、「人とまちをみんなでまもり、つなぐ」としては。

(事務局)

今後各論に入っていくときに、それぞれのスペースや機能を考えていく際は当初の3つの言葉がある方が、それぞれに当てはめやすい。例えば、防災面であれば「まもる」と。

(田中会長)

やはり当初の構造がよい。3つの言葉を考える。

(菅野委員)

それであれば、「つなぐ」が欲しい。

(松里委員)

賑わいの言葉を「そだて」に置き換えてしまう。また、「“森”としての庁舎」の前に「みんなの」という言葉を持ってくると、市民協働の意味を込められる。

(田中会長)

森はみんなのものなので、そこに込められているので、そのままでもよいのでは。あとは、「そだて」の言葉をどうするか。そのままでもいいのでは。賑わいも入る。「人とまちを まもり そだて つなぐ “森”としての庁舎」で進めたい。それでよいだろうか。

(各委員)

了承

(星野委員)

了承というか、少し寝かせた方がいいだろう。

(田中会長)

もちろん、寝かせて微修正があると思う。方向性としてよいだろう。

最終的に、以下の仮コンセプトを設定

「人とまちを まもり そだて つなぐ“森”としての庁舎」

5. 審議事項2) まちの回遊性向上に対する新庁舎の役割

審議事項3) 市民利用スペースの方向性

(事務局)

資料3の1ページの左側に三分科会長による「まちの回遊性」に関するご意見、右側にそのご意見を視覚的に表現したイメージ図を示す。

資料3の2ページには1ページ目の内容を受け、新庁舎の機能についての検討内容を示す。本庁舎は、用務がある人だけではなく、様々な人が立ち寄りたくするような機能を設置する方向で検討する。閉庁時間や土日祝日などの閉庁日の利活用も検討していく。中央区役所は、新たな人の流れを生み出すための機能の設置を検討していく。併せて、敷地周辺の回遊性向上に関連する整備は他の分科会と連携しながら検討を行う。以上、審議事項2)では、まずは、まちの回遊性向上に寄与する新庁舎の機能に関してご意見をいただきたい。

資料3の3ページは参考資料として、新庁舎に用務がある人の主な動線を整理したものである。本庁舎においては、桜町バスターミナルからのバス利用者の動線の観点から、熊本桜町ビルとの接続について検討を行っている。まち全体から本庁舎には東側から来る人も多いと考えられる。中央区役所は、バス利用者や電停利用者の東側からの動線がメインとなるが、辛島公園地下駐車場や桜町バスターミナルから来る西側からの動線も考えられる。回遊性や用務がある人の動線についての計画は次回の分科会でお示しする。

今回は、回遊性向上に寄与する新庁舎の役割の視点から、新庁舎に備わってあれば良いと思う機能についてご審議いただきたい。ここで、ご意見をいただいた後に、資料4で示す市民利用スペースの方向性をどのように整理していくべきかについてご審議いただく。

続けて資料4の説明をさせていただく。資料4の1ページは、基本構想における市民利用スペースの位置付けをまとめている。2ページと3ページに、これまで実施した市民意見聴取の結果を示す。オープンハウスでは、市民利用スペースに欲しいものについてシール投票を行い、その結果を2ページ目の左側にその結果を示す。市民アンケートでは、市民利用スペースに導入する機能の重要度についてお尋ねし、2ページ目の右側にその結果を示す。

資料4の3ページに、公募により約30名の市民にご参加いただいた市民ワークショップの内容について示す。市民ワークショップは、6月から8月にかけて3回実施しており、各回のテーマについては、新庁舎を契機としたまちづくりに始まり、徐々に対処エリアを絞って、第3回ワークショップでは、市民利用スペースの役割、必要な空間、機能についてグループワークを実施した。本庁舎の市民利用スペースの役割として、「みながたのしめる憩いの場」「いつでも使える」「情報発信」「交流の場」「シビックプライド」などのご意見をいただいた。中央区役所については、「区民が憩う交流スペース」「市民が活動できる」「観光案内」「長堀通りからの回遊性をつくる」などのご意見をいただいた。市民利用スペースに必要な空間・機能についていただいたご意見は、3ページの右下に示している。

資料4の4ページには、当分科会におけるこれまでの議論のうち、市民利用スペースに関連する内容を掲載する。

資料4の5ページには、これまでの市民意見聴取、資料1で示す仮コンセプト、資料3で示す「まちの回遊性に寄与する新庁舎の役割」を踏まえて、新庁舎の市民利用スペースの方向性についての事務局案を示す。本庁舎の市民利用

スペースの方向性を「憩いと賑わいにつつまれ新しい何かが生まれる空間」とし、空間イメージを「敷居が低く、用事が無くてもいつでも気軽に寄れる」「周辺施設と調和し、憩いにも賑わいにもフレキシブルに使える」「多様な交流が生まれ、市民と職員がつながり、共創できる場」とした。また、中央区役所の市民利用スペースの方向性を「人、場所、想いをつなぎまちに動きを生み出す空間」とし、空間のイメージを「場所をつなぎ、まちに回遊を生み出す」「区民の交流と活動の場」「周辺地域や市民活動を含め様々な情報を発信する場」とした。

今回、市民利用スペースの方向性についてご審議いただき、今後の具体的な機能、用途、配置等の検討を進めていきたい。なお、本庁舎・中央区役所いずれにおいても、「すべての人が利用しやすいインクルーシブデザインの視点」「一時的な避難や臨時窓口設置などの活用を想定した災害時にも役立つという視点」を持って検討を行っていく。

資料4の6ページに、市民利用スペースの名称の案を示す。これまでの議論や市民利用スペースの方向性を踏まえると、市民だけではなく誰しもが対象者となることやお客様として利用するスペースではなく交流や情報発信、回遊性の拠点となるなど、街のにぎわいに貢献し、まちづくりの核となるスペースになることから、名称を「交流・協働スペース」に変更したい。なお、これは基本計画を取りまとめるうえでの仮の名称であり、将来的には愛称を決めることも想定している。

7ページ～11ページは参考資料として、各機能の先行事例を示す。これらの事例を参考に、今後、市民利用スペースの方向性の検討を進めていく。

一方で、熊本市の文化顧問へ就任いただいている日比野克彦氏（東京藝術大学学長）に、文化芸術（アート）がもつ創造性や包摂性をまちづくりにいかすことで、これまで解決できなかった課題に対し、新たなアプローチを見出したり、人と人をつなげたりなど、アートをいかしたまちづくりの推進に協力いただいている。新庁舎整備に関してもご支援をいただいております。12ページでは市民利用スペースに対して日比野文化顧問が考えるイメージを共有させていただく。

「未来の熊本市をつくる広場」として、

- ・熊本市のことを語り合いたくなる広場
- ・市民と市役所職員と一緒にウェルビーイングの種を共創できる広場
- ・新庁舎の目指すべき3つの視点を実現する人が育つ広場
- ・人を育成する作用が自然に生まれてくる広場
- ・ここで生まれた発想が熊本市の未来につながることを夢見れる広場
- ・市役所職員のやる気が得られる広場
- ・新しい社会のイメージが生まれる広場
- ・多様な人と出会い、他者の魅力を受け入れ、違う魅力を他者へと伝えられるような広場
- ・熊本市から世界の未来が見えてくるような広場

をイメージされる。

13ページには、日比野文化顧問のスケッチを掲載している。日比野文化顧問のイメージも、市民利用スペースの検討に反映させていきたい。

（松里委員）

中央区役所から本庁舎・議会、桜町方面の動線の記述が無いので、もう少し動線について考慮していただきたい。

（事務局）

周辺整備も含めて、歩行者空間の整備も考えていきたい。

（松里委員）

バスや市電利用者の利便性も含めて考えたほうがいい。

（事務局）

別の会議体になるが、ご意見については共有させていただく。

(八幡委員)

庁舎の場所が変わると、にぎわいの拠点が移るといった影響が若干あるのではないかと考える。

(田中会長)

いろんな世代のライフスタイルとか使い方が、それぞれ面的にできていて全体的に賑わっていくというのは理想的。局所的に集中させるのではなく、それらをうまくつなげたい。

(道脇委員)

本庁舎に駐車場を作るとなると、熊本高森線の銀座通りから来る路線が込み合うことにに対し懸念があるが、そのあたりの対策はどのように考えているのか。

(事務局)

交通解析の経過を踏まえて、次回の分科会で整理した内容をお示ししたい。

(道脇委員)

地元として周辺の交通環境が非常に気になる場所であるので、対策をお願いしたい。

(田中会長)

本庁舎・議会と市民会館側とつなぐデッキの検討をしていただくのはいいと思うが、まずは両者間のアクセス性を強化する機能は必要。

(田中会長)

次に、資料4についてご意見をいただきたい。

(松里委員)

資料4の5ページに示してある市民利用スペースの方向性に具体性があまりなく、この資料ではどのようなことを想像しているのかわかりにくいところがある。防災拠点施設としての活用について記載してあるのは評価したい。

(菅野委員)

日比野文化顧問のウェルビーイングの種を共創するという表現は、新しい何かが生まれるのを彷彿させる。

(事務局)

空間イメージは、例えば、人と人との出会い、市の施策に対する興味が生まれるのも含めてのものである。

(田中会長)

協働というよりは、交流や共創とかだと思うので、そのようなキーワードが上に入ったほうが良い。空間イメージは本庁舎と中央区役所で違いを明確に出しているのもので、そのエッセンスが上にも反映されると良い。示してある内容に異論はないので、方向性と空間イメージについてはこれでいいのではないかと。

(星野委員)

方向性は良いと思うが、建物中にそのような場所が点在していくイメージがこの方向性の文言からはあまりできない。1か所大きなスペースを作ってもこれが実現できてしまう感じがする。いかに点在させていくかを示していただきたい。

(田中会長)

交流・協働スペース「群」といった、群れみたいなイメージがいいのかもしれない。どこかでそのエッセンスがわかるように資料に謳ったらいいいのではないかと。

(事務局)

次回の分科会では、配置も含めたところでイメージをお示しする。

(田中会長)

交流・協働スペースの名称について意見はないか。

(松里委員)

市役所の建物全体にちりばめてあるような、どの階に行ってもそこに市民が居場所を感じられるような、といった観点
が大事ではなか。

(事務局)

交流・協働スペースの愛称についてはこれから決めていくことになる。

(菅野委員)

「協働」を「共創」にしてもいいのではいいか。

(事務局)

市民利用スペース全体の議論の際は、みんなでいっしょにやるといった観点が今からの役所に求められることだろ
うから、我々としては、イメージについては市民利用スペースではなく、交流・共創スペースでもいいのではないかと
考える。

(田中会長)

「交流・共創スペース」で良いかと思うが、異論はないか。

(各委員)

異論はない。

閉会、事務局挨拶

(田中会長)

新庁舎の仮コンセプトを「人とまちを まもり そだて つなぐ 森、としての庁舎」とした。

(事務局)

第 2 回新庁舎整備基本計画検討分科会を閉会する。議事録の記録は後日HPで公開する。